

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成28年度 技術情報第6号（サトウキビのイネヨトウ）について（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので送付します。

平成28年度 技術情報第6号

1 対象病害虫 イネヨトウ

2 対象作物 サトウキビ（春植・株出）

3 発生地域 奄美地域

4 情報の内容

奄美地域の南三島ではメイチュウ類（特にイネヨトウ）による芯枯れ被害の発生程度の高いほ場が認められ、今後、被害の拡大が懸念されるため、適切な防除対策を施す必要がある。

5 情報の根拠

- (1) 春植・株出ほ場における5月の芯枯れ被害発生ほ場率は73%（前年81%， 平成79%）と平成並みであるが、徳之島、沖永良部島、与論島では発生程度の高いほ場が認められ、被害度、芯枯れ被害茎率も平成より高い状況にある（第1表）。

第1表 春植・株出ほ場におけるメイチュウ類による被害発生状況調査結果（5月）

	年次	調査ほ場数	発生ほ場率 (%)	発生程度 ^{注1)} 別ほ場率 (%)					被害度 ^{注2)}	被害茎率 (%)
				甚	多	中	少	無		
奄美大島	本年	30	57	0	0	20	37	43	19	2.2
	前年		77	0	0	14	63	23	23	2.9
喜界島	本年	10	60	0	0	20	40	40	20	2.4
	前年		90	0	0	30	60	10	30	3.0
徳之島	本年	10	90	10	10	20	50	10	40	7.2
	前年		60	0	0	40	20	40	25	3.5
沖永良部	本年	10	100	10	50	20	20	0	63	11.9
	前年		100	0	0	44	56	0	36	5.0
与論島	本年	10	100	0	40	50	10	0	58	8.5
	前年		90	0	0	50	40	10	35	4.8
地域全体	本年	70	73	3	13	24	33	27	33	5.0
	前年		81	0	0	28	53	19	27	3.5
	平成 ^{注3)}		79	2	12	23	42	22	33	4.6

注1) 発生程度別基準は、甚：被害茎率21%以上，多：被害茎率11～20%，中：被害茎率6～10%，少：被害茎率1～5%。

注2) 被害度は、発生程度別ほ場率にそれぞれ甚，多，中，少ごとに重み付けをした値。

$$\text{被害度} = \frac{4(\text{甚のほ場率}) + 3(\text{多のほ場率}) + 2(\text{中のほ場率}) + 1(\text{少のほ場率})}{4}$$

注3) 平成は、平成18年から27年の平均値。

6 防除対策及び防除上注意すべき事項

- ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるので除草を徹底する。
- 粒剤は遅効的であるため、生育初期の株元処理や培土時の予防的な使用か低密度時の使用が有効である。
- 散布剤のサムコルフロアブルは速効的であり、多発時には7～10日間隔で複数回散布が望ましい。
- スミチオン乳剤は低密度時のみに使用し、葉鞘内に十分薬液が浸透するよう丁寧に散布することで、カンシャコバナナガカメムシとの同時防除が期待できる。
- 農薬の使用にあたっては、表示ラベルをよく確認の上、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努める。